

## KSE⇒SDFインタビュー

- ・インタビューを行った日：2007年1月16日（火）
- ・インタビューを行う人：峰松拓毅（Kansai Space Explorers B4）
- ・インタビューされた人：横手紗織（宇宙開発フォーラム実行委員会B2）

今回は、宇宙開発フォーラム実行委員会（SDF）のインタビューを行いました。

SDF は、宇宙を工学・理学的なアプローチの他、社会的な視点からアプローチしていることと宇宙技術だけでなく、宇宙政策・宇宙法・宇宙ビジネス研究会の活動を行っている学生団体です。

インタビューに答えてくれたのは、今年から代表に就任した学部2年の横手さんです。

——SDFについて簡単に紹介をお願いします。

私たち、SDF（宇宙開発フォーラム実行委員会）は宇宙開発を技術面だけでなく、法律や政策、ビジネスなど文系理系双方の視点から、宇宙開発について考えていこうというコンセプトに基づき立ち上げられた学生団体です。SDFは団体コンセプトとして「文理融合」、「ネットワークの展開」、「リアリティーとの共鳴」をあげており、年に一度のフォーラム開催を中心に活動を行っています



図1：フォーラムの様子

まず「文理融合」ですが、技術・政策・法律・ビジネスの4研究会を設け週一回の研究會活動をはじめとした各種活動により、文理双方の視点からの幅広いアプローチを行っています。

「ネットワークの展開」としては宇宙法模擬裁判出場や UNISEC 参加、また国際学生シンポジウムという学生ディスカッションイベントへの参加などを通し、文系・理系双方の学生とのコミュニティを展開しております。

「リアリティーの共鳴」につきましては、現実の「宇宙開発の現場」において、どのような社会的視点が必要とされているのか、また現実の社会構造のなかで「宇宙」というツールがどのような課題を解決することができるのかを主眼において、宇宙開発フォーラムの開催や UNISEC ワークショップでの発表などのアウトプット活動を行っています。宇宙開発フォーラム実行委員会に関しては、SDF ホームページ <http://www.sdfec.org/> もご覧ください。

——フォーラムではどのようなことを行なっているのですか？

宇宙開発フォーラムは、毎年東京のお台場にあります日本科学未来館で行われています。フォーラムでは、第一線で宇宙開発に携わられている講師の方をお招きしての基調講演及びパネルディスカッション開催と、文理双方の学生を主体としたワークショップを行っております。UNISECの皆様のご協力もいただき、宇宙開発に携わっている各種学生団体・研究室からのポスター



図2：2006年フォーラム参加者

を展示してその活動を紹介する「ポスターセッション」も行いました。

宇宙開発フォーラム2006の詳細が、宇宙開発フォーラム2006報告書 [http://www.sdfec.org/2006/12/2006\\_2.html](http://www.sdfec.org/2006/12/2006_2.html) に載っております。ぜひご覧ください。

——SDFに入ったきっかけはなんですか？

高校3年のときに、たまたま自分の興味があった「宇宙」と「政策」というキーワードを検索したところ、ヒットしたのがSDFのページでした。「宇宙」と「政策」という視点の新鮮さにひかれました。将来は国際安全保障を学びたかったので大学入試の面接で「宇宙政策」を中心とした国際安全保障を学びたいと主張するため、受験時SDFのページにはずいぶんお世話になりました。その後、希望の大学・学部に入學した際に、このような学生団体で4年間を過ごしたいと思い、入りました

——大学に入る前からSDFのことを知っていたんですね？

そうですね、1年半ほど前から知っていました。

——これまで参加した又は現在参加していること（研究会・イベント等）について教えてください。

SDF内では衛星設計コンテストアイデア部門への応募をSDFのメンバー数名と行ないました。また、宇宙政策、宇宙法、宇宙ビジネス、宇宙技術の4研究会のうち、宇宙政策研究会に所属していました。

今後は宇宙法模擬裁判への出場を考えております。

SDF外では一年次には、国際学生シンポジウムの安全保障分科会に参加しました。アイセック慶應SFCが企画立案したインドスタディツアーや、インド学生会議のミーティング参加なども行ってきました

また、当時は早稲田大学政友会に所属し、勉強会に出たりしていました。

二年次には UNISEC ワークショップへの参加をしました。

また聴講しているゼミの関係で、立命館大学と合同でイラン問題のディスカッションを2泊3日で行ったり、早稲田祭でマネーロンダリングをテーマに発表したりしました。今後は宇宙法模擬裁判への出場、韓国のヨンセイ大学と私の所属する国際安全保障のゼミ（早稲田大学山本武彦ゼミナール）とが共同でディスカッションを行う「ワセヨンプログラム」への参加、衛星設計コンテストへの出場などを考えております。

——SDFに参加していて面白いと感じる時ってどんな時？

思いもよらぬ視点に出会えたときですね。

私は政治を普段勉強していますが、法律面や政策面では気づけない視点を工学部や理学部の子達が持っています。ひとつのケースを話し合っているだけでも、こんなに違う見方ができるんだ！という発見がとても新鮮です。

——高校生時代にやりたかったことと、現在やっていることとを比べてどうですか？

ああ、なるほど！一見なんの関連も見出せないように見えた「2つの興味」が見事に融合したなあ！！という感じです。高校時代、私は最初理系志望だったんですね。「宇宙開発」に小学校から興味を抱いてきたので。

しかし、中学・高校と政治にも興味を覚えました。どちらの進路をとるか選択しかねているときに、たまたま読んだ新聞で偵察衛星の記事を読んで、今まで夢をもってきた宇宙開発が社会科学的課題を持っていることにも気がつき、宇宙開発において社会科学的視点というものが必要とされているのではないかと、また政治においても宇宙開発をはじめとする技術分野をめぐる課題というものは重要なテーマではないだろうか、と思うようになりました。両者は決して無関係ではない、むしろ不可分一体のものであり、現実の宇宙開発では技術面と社会科学面、両方からのアプローチが必要とされている。このような状況下においてはまさに自分の興味を存分に活かせるのではないかと、「宇宙政策」をやりたい、と思い始めたのが高校生でした。

今はとりあえず希望通りだと思います。今、楽しいです！

——今の大学・学部に来たのも宇宙政策がやりたかったからですか？

はい。国際安全保障という観点から宇宙政策をやりたいと入学しました。「宇宙空間」をめぐる問題は実は冷戦後のグローバル化した社会の課題が凝縮された、とてもホットなツールなんですよ！国際政治の教授なんかも注目していました。

宇宙開発が安全保障の歴史とともに発展してきたこと、また冷戦後「人・金・物」が一気に国際的移動を行った結果グローバル化した一国では解決できない問題が噴出している現在、もともと国境がなく、「グローバルな」空間である「宇宙」をめぐる諸問題はまさにこれらの解決方法を考えるうえでも重要なツールとなると思います。

——将来はどういうことをやっていきたいですか？

将来は、大学院に行って宇宙政策を学びたいと考えています。

でも日本だとあまり宇宙政策を学べるところはないので、また国際的にも「宇宙法」はスタンダードですが、「宇宙政策」はまだあまり大学数も多くないので、オランダかアメリカの大学院に行きたいです。

でも最近、省庁やシンクタンクなどで政策を立案する側の仕事にも興味をおぼえ始め、まだ模索中です。

——一日の生活を教えてもらえますか？

午前から午後にかけては大学の授業に出ています。

それからバイトに行き、夜はSDFやゼミの資料を作っていることが多いです。

SDFメンバーと飲みに行ったりもします。

——SDFの満足度を教えてください

とりあえず120パーセントですね。メンバー自体やOB・OGにも、SDFを支えてくださる周りの方々にも、何かアクションを起こす機会にも大変恵まれていて魅力を感じます。

——代表としてこれからSDFでやっていきたいことを教えてもらえますか？

メンバーの所属学部が多様となってきたこともあり、今年の方針として、研究会活動のみならず、講演会の開催や宇宙法模擬裁判などを通して、文系は理系の、理系は文系の知識を吸収できる機会をより多く設けたいと思っています。また、UNISECに所属されている研究室や団体を訪問したり、共同プロジェクトを行ったりして技術分野に係る社会科学的課題についてより現実の開発に即した社会科学的知見を深めていければと考えています。また同時に、文系理系双方の学生による定期的な研究会活動も継続し、SDFの団体コンセプトである「文理融合」、「ネットワークの展開」、「リアリティーとの共鳴」をより一層はかっていきたいです。

——最後に記事を読んでいる人に向けてSDFのアピールをしてください！

「宇宙開発」という言葉をお聞きになると、みなさんはロケットや衛星といった宇宙開発の技術分野を思い浮かべられるかと思います。

しかし、ベンチャー企業の宇宙開発参入や民間人宇宙飛行士の誕生など、民間の宇宙活動が活発化するなか、私たちは「宇宙で何をしたいか」「宇宙を使ってどのようなことができるのか」「宇宙利用の方法をめぐって対立が起こった場合にはどうすればいいのか」など、技術的視点以外の視点も必要とされてくるでしょう。

私たちSDFはこのような現状の宇宙開発に際し、宇宙開発を技術面だけでなく、法律や

政策，ビジネスなど文系理系双方の視点から，宇宙開発について考えていこうというコンセプトに基づき立ち上げられた学生団体です．

「宇宙開発」というと理系のみ分野だと捉えられがちですが，この機会に宇宙に興味のある文系の方も，また理系の方も，宇宙開発について私たちと一緒に考えてみませんか？

お忙しいところインタビューに協力していただき，どうもありがとうございました！



インタビュアー：峰松 拓毅